

薄層切削で95%除染

除去物6分の1以下

NIPPO

NIPPOは、舗装道路の放射能除染技術を開発し、このほど福島県富岡町の町道で公開施工を実施した。特殊な切削ドラムを備えた路面切削機などを使用。路面を5ミ以下で平滑に切削した上で、追走する集積機が除去物を回収し、自動で袋詰めする。路面は清掃するだけで交通開放が可能。切削機、集積機とも粉じんの飛散対策を講じている。汚染を95%以上低減する効果を確認済みで、切削による従来の除染技術と比較すると、除去物を6分の1以下に抑制できるといっ

開発したのは、「薄層切削路面除染システム」。環境省の12年度除染技術実証事業に採択されている。道路管理者のほか、駐車場や工場内の道路の除染を計画する民間企業などに提案する。

システムは、ビットの形状を工夫した特殊切削

ドラムを装備した路面切削機、切削で発生した除去物を回収する集積機で構成。ドラムは、水の噴霧装置が付いたカバーで覆っている。切削機は、切削幅2.0メートルの大型機と、同1.2メートルの小型機の2種類あり、除染対象地の規模や部分までカバーで覆って

特性によって使い分け

る。大型機のカバーは集

じん機と内部を負圧にす

る機構を備える。集積機

は、除去物を路面からか

き上げる装置に水の噴霧

装置が付いている。除去

物はコンベヤーで搬送す

る仕組みで、袋詰めする

部分までカバーで覆って



システムによる除染作業

ある。一般的な切削機を使っ
た除染では、路面に切削
溝が残り、交通開放のた
めに対策を講じる必要が
ある。新システムは、適

度は滑り抵抗が残る平滑路面にできるのが特徴。清掃車を走らせ、必要に応じて区画線を引き直せば一般車向けに速やかに交通を開放できる。独自の表面処理技術「ニッポカーペット」や、薄層オーバレイを適用すれば、より良い路面状態に仕上げられる。1日当たりの施工量は、一般的な道路で約1800平方メートル。従来の切削除染より割高になるが、施工量が多いのに加えて、除去物を大幅に低減できるメリットがある。NIPPOは「道路は除染作業に携わる人、資材、除去物の動線になる」として、高線量地域の初期除染への提案も進める方針だ。